

令和2年度 自己評価実践報告書（評価結果）

福島県立小高産業技術高等学校

評価：A＝達成できた B＝概ね達成できた C＝一部達成できていない D＝達成できていない

部署	今年度の目標	実践方法	実績・成果	評価	次年度に向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など
総務部	式典を滞りなく行う。	各部・各係との連絡調整に努める。	入学式は、コロナ感染防止のため、来賓・保護者の列席無しで挙行了したが、状況の変化に対応しながら滞りなく実施できたと思う。また、卒業式については、要項を既に作成するなど、準備を進めている。	B	コロナ対策をしながら、臨機応変な対応を行えるように事前に準備しておく。
	学校要覧、学校パンフレットを滞りなく作成する。	作業日程を決め、一つ一つ実施していく。	要覧、パンフレットともに問題なく滞りなく作成することができた。また、次年度の作成に向けた準備も始められている。	A	学校生活の魅力が伝わるような写真を準備しておく。依頼原稿の進捗状態を確認し、予定内に原稿を集める。
	緊急事態に対応できる態勢づくりに努める。	危機管理マニュアルを策定し、緊急事態に対して迅速に対応できるようにする。	予想されるあらゆる場面に応じたマニュアルを作成できた。	A	コロナ対策も取り入れながらマニュアルを作成する。
	防火防災意識の高揚を図る。	防火管理点検を促進し、施設の防災に努める。	防火点検を実施し、不備がないように努めた。	A	防火点検の場所の割り当てを固定して、変化に気づけるようにしたい。
		防災訓練を促進し、緊急の災害に備え防災意識の高揚を図る。	防火避難訓練及び防護団編成を予定通り実施した。	A	総務部内での事前の打ち合わせを行い、細部の確認を行ってから進めていくようにする。
		破損箇所への迅速な対処に努め、生活の安全を確保する。	事務の協力を得て迅速に破損箇所の修理を行った。	A	今後も事務と連携しながら迅速に進めていく。
	PTA活動の活性化を図る。	保護者との連携を深め、PTA活動の活性化に努める。	コロナ感染防止のためPTA総会が中止になってしまったが、各委員会活動には協力をいただけている。今後は、次年度役員決定に向けて呼びかけを進めたい。	B	三役との連絡は密に行えた。役員会については、学校からの連絡等を入れるなど、内容を工夫する必要がある。また、使用会場と学校側の参加人数を吟味する必要がある。
		生徒・保護者に効果的に還元できる団体会計の運営と管理に努める。	適正な会計に努めている。義援金を活用して、大型モニター等を購入した。	A	次年度も適正な運営に努める。
		魅力あるPTA広報誌の発行に努める。	広報委員(保護者)の希望する内容を最優先に掲載している。コロナ禍の影響で記事が少なく苦慮している。	A	次年度も保護者の知りたい情報を調査広報委員から挙げてもらい、保護者の読みたい紙面作りを心がけていく。
	同窓会活動の活性化を図る。	同窓生と職員の間で共通理解を図り、同窓会活動の活性化に努める。	コロナ禍の影響で総会では実施できなかったが、理事会を行ったり、総会の議案について書面により理事の意見をいただいたりと共通理解に努めた。	A	今後も理事会や総会を通して、共通理解を図っていきたい。
同窓会館の利用しやすい環境作りに努める。		コロナ禍で、合宿等の利用はできなかったが、整備には努めた。ただ、整備を進める中で、利用のない時期の定期点検の必要性も感じた。	B	会館の利用が少なかったため、細部を点検し清掃等に力を入れていきたい。	
教務部	基礎学力の定着と授業力の向上に努める。	自習時間を少なくし、授業時間の確保に努める。	・授業交換を行ったり、学習指導案の作成するなど計画に沿った授業を行うことで自習対応の時間を減らすように、学校全体として取り組んだ。	B	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、授業時数が減ってしまうことが予想される中、継続して授業時間の確保が課題となる。 ・考査において実施科目数に応じて日数の調整を行うなど、授業時数の確保を行いたい。 ・引き続き授業交換を積極的に行っていく。
		主体的に学ぶ授業実践や言語活動を通して、思考力や探究心などの育成を図るため、多様な授業形態の研究・実践に努める。	・コロナ対策でグループ活動等が厳しい時期もあったが、工夫しながら、できるだけ生徒の実情に合った授業形態を選択し実施した。	B	・新型コロナウイルス感染防止対策のためグループ活動が難しい状況は続くと思うので、教科担当者それぞれにさらなる工夫が求められる。互見授業の機会を増やすなどして、アイデアを共有できればと思う。 ・クラスの実情に合わせて分割授業にするなど、対応可能な範囲で来年度も取組みたい。

評価：A=達成できた B=概ね達成できた C=一部達成できていない D=達成できていない

	基礎学力の定着と授業力の向上に努める。	生徒の学習状況を見極めながら、わかる授業の実践に努め、学年などと連携しながら、成績不振者に対する改善指導を早い段階から行う。	・日頃の授業内での声かけや課題の確認、テスト前期間における補習などを利用して、各教科で成績不振者への改善指導を行っていた。	B	・来年度は、一学級減ということで、新入生の学力にどのような影響が出るか。それに応じた早期対応が必要である。 ・成績不良者に対しては「頑張らないといけない」という意識づけはできたと思う。しかし、30点台の生徒や提出物への取り組みが良くない生徒への声かけや指導の仕方を考え対応する必要がある。 ・生徒それぞれに合った指導を心掛けていきたい。
		各種研修会・研究会の案内・参加を推進し、教員の指導力の向上に努める。	・センター研修等、各種研修会・研究会の案内を行った。 ・全教職員を対象に校務支援システムについての講習会を実施し、理解を深めた。 ・保健部と連携し、生徒理解のための研修を実施した。	B	・多様化する生徒に対応できる指導力の向上につながる研修を心がけたい。 ・コロナ禍に必要とされる研修にも着目したい。 ・引き続き研修の機会提供を行っていく。
教務部	健やかな体と豊かな心の育成に努める。	生徒各自が自己の健康管理に留意して生活することで、精勤・皆勤を目指せるように指導する。	・保健部で行っている体温チェックなどを参考に健康状態の把握をし、健康管理に努めた。 ・うがい・手洗い、室内の喚起などの声かけを行い、体調管理と環境づくりに努めた。	B	・難しい判断であるがコロナ関係で出席停止扱いになることに甘えていた生徒もいるように思えるので、出停の扱いになる症状は検討の必要があるのではないだろうか。 ・担任や保健部との連携を図りながら、日常的な体調管理に対する意識付けが課題である。 ・前年に比べて欠席は減ったが、遅刻が増えてしまったため、生徒自身が自分の体調を把握して生活できるよう声掛けを行っていきたい。 ・多くの生徒が実行しているが、正しいマスクの着用と公共の場や授業中の着用の徹底を意識させる必要がある。 ・コロナ対策の成果もあり、インフルエンザの流行がなかった。次年度も行うべきである。 ・コロナの影響もあるのか、体調管理を心掛ける生徒が増えたように思う。
		欠席や欠課時数の多い生徒に対しては、担任等と協力し、生活等の改善ができるようにする。	・的確な出欠の記録を残すことを心掛け、欠課時数など担任への事前通達を行うことができた。 ・欠席の多い生徒については担任との情報交換に努め、関係部署と連携を図り、生活改善ができるように努めた。	B	・コロナ禍における学校生活に対して意欲の低下が見られる生徒に早期に対応できるよう担任や保健部などとの連携が必要である。 ・コロナ予防による出席停止が多い生徒へのアプローチが遅くなってしまった。 ・出停による長期欠席者（コロナや濃厚接触者の自宅待機など）に対する学習機会を失わせないよう対策する。年間を通して出停日数の多い生徒たちに対しては、学習内容の補充のために補習指導や課題を与えるなどの対応策の検討を行う。 ・欠席、欠課の多い生徒に対して、今年度から連絡票の様式（3種類）が変わったことにより、一層、教科担任が把握しやすくなった。来年度も続けてほしい。
情報管理部	FACE運用設定の支援に努める。	FACEに関する設定と機器管理を行い、安定したネットワーク環境の維持に努める。	FACE運用規定に沿ったクライアントの接続制限しPC・プリンタを管理し、ハードウェアの管理に努めた。また、ネットワークに関するトラブルに関しては速やかに解決するよう努めた。	B	FACE運用規定に沿ったUSBメモリ等の外部機器の接続には制限を行い、申請による許可制としているが、クライアントPCにスマホ等の接続の跡も見られFACEの運用条件が理解されていない先生も見られる。校務支援システムも運用していることで運用規定の共通認識が必要であり、FACEに関する説明をする必要もあると考える。
	セキュリティ意識向上に努める。	セキュリティポリシーについての理解と意識向上に努める。	会議等でセキュリティに関する内容を提示しながら、セキュリティに関する自己点検を通してポリシーの理解と意識向上に努めた。	B	情報セキュリティポリシーに関する内容を職員会議等で伝え、外部からのメールを安易に開かないことや、パスワードの管理など意識向上につながっていると思われる。
	Webサイトの活用促進を図る。	本校のWebサイトの活用促進を図り、外部への情報発信を支援していく。	各部に内容を変更するIDとパスワードを配布して、web内容の更新に努めてもらっているが、今年度は変更内容が少なくなっている現状でありもう少し内容をあげるよう努力する必要がある。	C	今年度は、SPH指定校が終了し、またコロナ禍の影響もあり、行事が少なく学校のwebサイトに記事があまり上がらなかったようである。各部にIDとパスワードを配布しているので、WebへのUPの方法についての講習などを行って内容の充実にも努めた。
	校務システム等の支援に努める。	校内での各種校務処理システムの支援を行い円滑な処理に努める。	校務支援担当を中心に1学期の成績処理が問題なく終了し、生徒指導要録に向けて作業を進めている。生徒のデータをもう少し統一し多く入れることで、各部に向けた多数の機能が使用できるようになる。	B	今年度から導入した校務支援システムであるが、管理・運営は教務と連携し進め、部内での補助は基本データの入力にとどまった。生徒のデータ管理について、誤りが出ないように入学試験時から統一した部署での取り扱いが望ましいと考える。

評価：A＝達成できた B＝概ね達成できた C＝一部達成できていない D＝達成できていない

生徒指導部	挨拶の励行等を通して、礼儀作法を身に付ける。	いじめのない学校を目指し「いじめの定義」について刷り込んでいく指導とともに、生徒会と共に校門や街頭で挨拶運動をしていく。	いじめの定義の配布物を通して、注意が必要な言動への意識付けを図っている。	A	初めての試みとして全職員による登校指導を行った。挨拶の励行以外にも適正な制服着用の様子も観察でき良い機会になった。先生方の意見を取り入れスクールバス指導に代わる次年度の取り組みの一つにしていきたい。
	学校や社会のルールを守る等、規範意識の向上に努める。	校内での指導（学校生活内での指導・服装頭髪指導）や校外での指導（駅頭指導・下校指導等）を実施し、定期的に注意喚起をしていく。	適宜、注意喚起文を作成し、LHR等での指導資料として活用させている。	A	注意喚起の効果はどこまであるのかは判断しにくいですが、概ね良好だったように思う。次年度からは事後的な喚起ではなく抑止につながるよう事例に触れながら早目の注意喚起を行いたい。全職員による注意喚起を目指したい。
	生徒会行事を成功させる。	生徒会行事や委員会活動において、まとめ役を中心とした活動を展開し、達成感とともに積極性や責任感を身に付けさせる。	コロナ関係の中、生徒会を中心に企画・運営など工夫しながら活動することができている。	A	生徒会行事が少なく達成感の充実には及んではないが、次年度の文化祭に向けた取り組みを早目に行い全校生徒の充実感の達成に努めていきたい。アルコール消毒などは全職員でやっていくしかない。
	部活動を活性化し、よりよき人間関係を構築する。	部活動の支援に努め、円滑な部活動を通して望ましい人間関係を育てる。	各部活動顧問と連携を図りながら進めている。	B	部活動顧問会議などを通して全顧問による共通指導を行い、落ち着きのある学校生活につながる工夫をしていきたい。下校時のチームジャージ着用について検討していく。
	ボランティア活動の推進をする。	各種委員会と連携し、校舎内外で清掃ボランティア活動を実施する。また、地域の関係機関と連携し、各種ボランティア活動を実施する。	生徒会、各種委員会と連携して実施している。	B	コロナ渦の状況では難しい面はあるが、校舎内外や通学路清掃を行うボランティア活動を部活動、委員会毎に展開できるよう考えていきたい。
進路指導部	進路に対する意識の啓発に努める。	「進路だより」やWebページを活用して進路情報を発信し、保護者と連携しながら生徒が進路活動に主体的に取り組む姿勢や態度を育成する。	「進路だより」を6回発行し、進路行事と合わせWebページにアップした。	A	進路だよりは昨年より多く発行した。さらに内容も例年より進路選択への興味関心を高めるために具体的に情報を発するように工夫したので、生徒・保護者へのアンケートで進路だよりが役に立っているという評価が上がった。
	キャリア教育を推進し、生徒自らの確かな進路選択ができるように指導する。	進路に係る各ガイダンスを通して、現在や将来において成すべきことや社会から求められる人材等について理解を深めさせ、キャリア教育の一環とする。	進路に関するガイダンスについて、学年と連携しながら指導を進めている。	B	学年と連携しながらガイダンスを実施することが、進路意識の高揚につながり、キャリア教育の一環となっているので、定期的実施していきたい。
		各種検査を実施し、自身の適性・興味・関心・能力を把握させ、進路選択の一助とする。	5月に3学年でクレペリン検査を実施した。1、2学年は2学期に職業適性検査、レディネステストを実施した。	B	実施結果をふまえて生徒理解を深め、生徒の進路指導へつなげていきたい。
	全生徒の進路希望の実現に尽力する。	校内企業説明会や進学ガイダンスを実施し、職業や企業、学校について生徒の理解を深めさせ、生徒のよりよい進路選択につなげる。	コロナの影響により、6月に予定していた校内企業説明会を実施できなかった。	C	コロナの影響により、6月および1月の校内企業説明会や仕事メッセ等の行事が中止となり、地元企業の理解につなげることが出来なかった。
		早期に企業訪問を実施し、今年度の企業動向の把握や求人確保につなげる。来校者の対応や説明会への参加等により得た情報を共有し、指導に生かす。	5月末から6月にかけて学年、科の協力を得ながら地元企業との電話懇談を実施し、動向把握や求人確保につなげることができた。情報の発信・共有に努めた。	B	生徒の希望や今年度の内定状況を踏まえ、次年度訪問企業の選定を行いたい。
	進路に係る各手続き等において、各科・学年との連携を密にして指導する。	校内外における進路に係る各手続きについて、学年・科と連携しながら指導を進めている。	A	応募手続きのミスがないように、複数教員による確認作業を徹底して行った。引き続き書類等について学年・科へ連携して指導にあたりたい。	

評価：A=達成できた B=概ね達成できた C=一部達成できていない D=達成できていない

保健部	生徒自ら望ましい生活習慣を確立し、心身の健康の保持増進、豊かな人間性の育成に努める。	【保健】 健康診断の結果・昨年度の生活習慣実態調査結果での問題点を明確にし、学校保健委員会での発表や健康の保持増進に関する事後指導に役立てる。	予定の健康診断はすべて終了することができた。結果については、個別に対応しながら自分の健康状態を知り、予防・診断を進めるように指導した。今年度は、感染症予防のための休校措置があったので、休校中と夏休み中の生活状況アンケートを取り、学校保健委員会で結果を報告した。	A	来年度もコロナウイルスの影響が継続することを踏まえて、計画的に健康診断を実施していきたい。今年度の休校後、生活状況アンケートを実施し、学校保健委員会で協議することができ、職員会議で職員に周知できた。今後、休校措置等があったときに、生徒の生活リズムが崩れない対策ができるようにしていきたい。
		【保健】 注意喚起・施設環境の整備により感染症の予防に努める。	保健だよりや始業式・終業式での呼びかけを中心に、適宜感染症予防に努めた。国の方針により、風邪症状等の欠席は全て出席停止扱いとなっているが、医療機関への相談もなく定期的に休んでいる生徒がおり、対応に疑問が残る。	B	式以外にも、感染拡大のステージに合わせて、その都度感染症予防について呼びかけた。3学期は昼食時の見回りを実施した。アルコールやマスク等の感染症対策に必要な用具が入手しやすくなってきたので、職員・生徒が校内で消毒作業がしやすい環境を整備していきたい。次年度は出席停止が多い生徒に対して、保健的な助言をしたいと考えている。
		【教育相談】 面接週間やスクールカウンセラーを活用し、生徒理解に努め、教職員間の共通理解・啓蒙を進める。	休校措置や交通手段が不便なことから、1年生の全員面談が全く計画通りに進んでいない。学年や担任からの要望はケース会等で対応し、様々な生徒に対する情報を共有する場を設けている。	B	スクールカウンセラーが関東方面の先生のため、交通事情や感染症対策で来校できない期間がかなりあった。しかし、状況に応じて計画を組み直したり、情報管理部にお願いし、リモートで面談できる体制を整えてもらったりして、1年生全員面談も終了できる予定である。
		【環境整備・安全管理】 毎日の清掃とゴミの分別を徹底し、定期的に大掃除・ワックス掛けを実施する。	先生方の指示のもと、生徒たちは毎日清掃に取り組んでいる。ゴミの分別も徹底されている。1学期終業式に大掃除を実施し、壁掃除やカビの除去・エアコンフィルターの清掃を実施した。	A	毎日の清掃については、先生方の指導のもと、良く取り組んでいる。今年度は3学年とも教室の床磨き・ワックス塗布が実施計画されているので、来年度も継続して実施していきたい。
図書部	充実した図書館整備に努め、開かれた図書館作りを推進し、生徒の読書活動と主体的な学習活動を豊かにする。	授業や進路活動に役立つ書籍や生徒の興味関心を引く図書館資料を充実させる。	進路に関する特設コーナーを作成するなど、生徒の進路活動を支援する取り組みを行っている。	A	進路や授業にかかわる図書や雑誌を一層充実させ、全体に周知する活動を行ってきたい。
		利用者が手に取りやすいように、話題に合わせた特設コーナーを設置する。	季節ごとに工夫した展示や新刊コーナーを設置するなど、利用者の利用促進を考えた図書館づくりを行っている。	B	限られたスペースを効果的に活かしたコーナーづくりに努めたい。また、設置したことを図書館だよりやその他の広報で周知し、入館者の増加につなげたい。
		図書委員の活動を充実させ、生徒主体の図書館作りに努める。	カウンター当番の傍ら、図書委員による特設コーナーの設置や本の紹介ポップ作りを行うなど、意欲的な活動が行われている。	A	コーナー作りに関しては、生徒の個性が発揮され充実したものとなった一方、昨年度に比べ魅力的なPOPが減少した。POP作りの手本を提示するなど、次年度は魅力的なPOP制作を目指したい。
		新着本や話題の本などを紹介した図書だよりを定期的に発行し、年度末には図書館報を発行して図書館利用の啓蒙活動に努める。	図書館だよりや図書委員の活動の活性化などにより、図書館を利用する生徒の数は増加している一方、休校や夏季休業の日数減少などの影響もあり、貸出冊数が昨年に比べ、減少している状況である。今後は生徒にとって魅力的な蔵書を充実させるよう取り組んでいきたい。	B	特定の学年の図書館利用率、貸出冊数が極端に減少していることもあり、もっと多くの生徒が図書館に来館したくなる広報活動を再考したい。
生徒の文化意識を高め、情操教育に努める。	文化的な芸術鑑賞教室を実施する。	次年度に延期	B	次年度は、開催に向けて十分に企画や内容の検討をしていきたい。	

評価：A=達成できた B=概ね達成できた C=一部達成できていない D=達成できていない

1 学年	小高産業技術高校生としての自覚をもち、健全で安全な高校生活を送れるように努める。	毎日のHRや授業を利用し、端正な服装・頭髪を心がけるよう指導する。また、挨拶の徹底を図る。	服装・頭髪検査や日々の授業での声かけを通して、挨拶や端正な服装・頭髪を促している。高校生活への慣れから若干の乱れが出てきているので、随時、声かけ・注意喚起を行っていききたい。	B	・学年全体で頭髪検査を実施し、おおむね服装や頭髪の乱れは見受けられない。注意を受ける生徒は固定化しているので毎日、注意喚起し、保護者と連携して改善に努めたい。新型コロナ防止の影響で外部カウンセラーが十分に活用できなかったが、相談部と連携して対処していきたい。
	基本的な生活習慣を身に付け、協調性を持って高校生活を送る。	保護者との連携を密にし、遅刻・早退・欠席の減少を図るとともに、各種行事に対して計画的に協力して取り組ませる。	全体的に欠席も少なく、生徒会行事にも積極的に参加しているが、一部、遅刻が多くなっている生徒もいるので、保護者との連携をさらに深め、基本的な生活習慣の確立に努めたい。	B	行事の縮小があったが、生徒たちは積極的に行事に参加していた。一部、出席停止が多い生徒がいたので進路とリンクさせながら体調管理の大切さについて話をするとともに休まず登校することの意義について指導していきたい。
	進路に対する意識を啓発し、基礎学力の定着、資格取得、部活動に対して積極的に取り組むことで人間性を高めさせる。	適性検査や進路ガイダンスを実施し、進路に対する早期の意識付けを図るとともに、日々の授業や課外、朝自習が進路実現に大きな力となることを自覚させ、学習や資格取得、部活動に対する意欲の高揚を図る。	各種検定も再開され、教科担当者の熱心な課外授業の下、意欲的に検定に取り組んでいる。また、毎日の朝学習の習慣も定着しつつある。今後、進路に関する各種検査や講演会の開催を予定しており、少しずつ進路に対する意識を高めていきたい。	B	進路希望決定に向け、適性検査や基礎力テストなどを実施してきたが、進路アンケートの結果を見ると進路の方向付けがされていない生徒が1/3と多い。また、コロナの影響で外部行事も中止になり、意識付けが不十分だった。2年後の進路状況が不安であるため、早めの行動と意識の高揚に努めたい。
2 学年	中核学年としての自覚と責任を持ち、諸活動に積極的に参加する態度の育成に努める。	学校行事や各種委員会活動等に積極的に参加するよう促し、責任感を身に付けさせる。	生徒会や各委員会等で、強い責任を持って係の任務に取り組む姿が見られた。	A	来年度は、最高学年として各種行事などに積極的に取り組み、良きリーダーシップを発揮させたい。
	進路の実現に向けて、基礎学力の定着と資格取得に積極的に取り組ませる。	日々の授業への取り組みを向上させることで、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。また、スキルアップの重要性を認識させ、各種資格受検を促す。企業説明会やインターンシップ、学年集会等を通じて、進路の意識付け及び目標の具体化を図る。	1年後の進路活動を意識して、学力の向上を目標に授業に積極的に取り組む生徒が増えてきており、クラスによっては成績の上昇が見られた。各種資格試験の合格率アップをはじめ、検定に意欲的に取り組む生徒がいる一方、意欲が見られない生徒もおり、継続して資格への挑戦を促していきたい。	A	日々の授業が進路実現に大きな力となることを自覚させ、生徒が積極的に物事に取り組めるように、今後も学年全体で指導にあたりたい。今後も学習活動や各種資格講習会等に意欲的に取り組む生徒をふやしていきたい。
	時間の厳守と整理・整頓・清掃の徹底を図り、基本的な生活習慣と社会人になるために必要な資質を身につけさせる。	保護者との連携を密にし、遅刻・早退・欠席の減少を図る。	学年全体としては、欠席などは目立っていないが一部に欠席が多い生徒がみられる。今後も保護者と連絡を密にして指導していきたい。	B	遅刻・早退・欠席は進路実現にも影響してくることが予想されるので、来年度も引き続き家庭との連携を深めながら減少を図っていききたい。
		毎日のHRや授業を利用し、端正な服装・頭髪及び教室の整理整頓を心がけるよう指導する。（基本的な生活習慣の徹底）	服装・頭髪の指導については、学年全体で連携して指導を行っている。進路の実現に向けて意識を高めたい。	B	一部の生徒にまだ服装、頭髪など意識の低い生徒がいるので、引き続き学年集会を開くなど、最高学年としての意識を高めて進路実現出来るように指導していきたい。
	校内生活において、挨拶の徹底を図る。	挨拶をする生徒が多く見受けられる。今後も継続して指導をしていきたい。	B	挨拶に関して、まだ習慣化できていない生徒がいるので、今後も継続して指導にあたりたい。	
3 学年	最高学年としての自覚を持ち、諸活動に積極的に参加し運営する態度の育成に努める。	各種行事（清掃活動・各種講演会・体育祭・スポーツ大会等の活動）において、そのまめ役となるよう喚起し、積極性や責任感を身に付けさせるように努める。	生徒会を中心にして、最高学年として責任を持って行事の運営を行う事ができた。今年度は学校行事がなかったのでスポーツ大会は、生徒にとって良い行事となった。	B	コロナの影響で公開文化祭など各種行事が中止になるなか、最高学年として各種行事等では積極的な活動が出来ていたといえる。
	進路の実現に向けて、学力の向上と定着を図るとともに、各種検定等に積極的に取り組ませる。	進路の実現に向けて、「一般常識&SPI対策ワーク」等の学習により学力の定着を図るとともに、スキルアップの重要性を認識させ、各種検定受検の学習に取り組ませる。	就職試験を受験するにあたって「一般常識ドリル」等の学習に取り組む生徒は増えたが、全体的な学力の定着にまでは至っていない。資格取得に関しても積極的な生徒と消極的な生徒の差は大きい。	A	就職・進学試験を受験するにあたって、合格、内定を目指して学習等に熱心取り組む姿がみられた。しかし全体的な学力の定着にまでは至っていない。資格取得に関しても積極的な生徒と消極的な生徒の差は大きい。
	自己理解・啓発を深めることで個性や才能を伸ばさせ、より良い進路の実現を図る。	模擬テスト・各種検査を通して客観的に自己を把握させるとともに、三者面談等を通して生徒の進路目標の明確化を図る。	作文テスト、クレベリン検査、面談等を予定通り実施し、適性の把握や進路目標の明確化に努めた。3者面談等も時間をかけて丁寧に実施することができた。	A	三者面談等を予定通り実施し、適性の把握や進路目標の明確化に努めた。3年生全員の進路の実現に向けて計画的に取り組む事ができた。
	自主的・自律的態様の育成、良識ある社会人として必要な勤労観・職業観の育成に努める。	日々の授業、進路行事、講演会等の学年行事を通して、社会人・職業人としてどうあるべきかを考えさせる。	進路指導部の協力を得て進路の指導を丁寧に行うことができた。2学期以降も進路の実現に取り組む、社会人として必要な知識や自覚を持たせるよう、LHRや学年行事等に対応していきたい。	B	進路決定に向けて各先生方の協力のもと丁寧な進路指導が出来たといえる。社会人、職業人としての自覚をもたせる指導が出来たといえる。

評価：A=達成できた B=概ね達成できた C=一部達成できていない D=達成できていない

工業科	国家資格取得を目指す。	危険物取扱者について6月、9月～10月に課外を実施する。	各科にて対応	B	各科にて計画的に実施できた。受講者全員の合格を目指して積極的に指導していきたい。
		電気工事士資格取得に向けて、筆記・実技試験の課外授業を実施する。	10月に筆記試験を受験した。E2とI1A(電子)は全員受験。12月の実技試験に向けて指導を進めた。	B	合格者は電気科2年18名、機械科3年1名、産業革新科2年6名、同1年9名という結果であった。他科の生徒からも希望者が出ており、次年度も継続して指導する。
		ガス溶接技能講習について、12月下旬(1学年)に3日間の講習を実施する。	12月に実施	A	12月23日～25日に、機械科1年と工業科の生徒のうち希望者を合わせた56名を対象に講習会を実施した。筆記及び実技試験の結果、全員合格した。
		ボイラー取扱技能講習について、12月下旬(2学年)に実施する。	12月に実施	A	12月22日～23日に、機械科2年と工業科の生徒のうち希望者を合わせた71名を対象に講習会を実施した。筆記試験の結果、受講者全員が合格した。
商業科	「専門高校による小中学生体験学習応援事業と小中学校のキャリア連携事業」等に参加し成功させるとともに、本校の取り組みを外部にアピールする。	各種事業を通して「ものづくり」教育の充実を図る。	「ものづくりマイスター」を活用し、ものづくり教育を通して人間教育にも取り組んでいる。	B	「ものづくりマイスター」の活用には至らなかったが、ロボット大会やコンピュータアイデアコンテスト、課題研究発表会と様々な行事でものづくりを実施した。
		小、中学校の教員とキャリア教育についての情報交換を行い、教員のスキルアップに努める。	小学生:10/20(火)・11/10(火)、中学生:11/17(火)に計画している「小中学生体験学習応援事業」にて実施した。	A	小・中学校との体験学習事業を通して、各校のキャリア教育に関する取り組みの情報交換を行い、校種間で連携したキャリア教育の充実につなげることができ、互いにスキルアップをはかることができた。
		小、中学生を対象とした体験型授業を本校で実施する。		A	次年度も継続していけるように計画的に授業を展開していく。
		課題研究発表会を実施する。	全体発表会を1月に実施した。	C	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、全大会を実施していない。代替として各科代表者のみを参加させての発表会(無観客)を実施した。
	資格取得を効果的に活用した授業実践を目指す。	各種事業を通して「人と人をつなぐづくり」教育の充実を図る。	南相馬地域支援事業ならびに専門高校活性化化学業等を通して地域関係機関との協同授業を展開。	C	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、講演会や事業所見学を実施できなかったものがある。
		基礎科目においての理解を高めることで、興味関心をもたせ、上級資格への挑戦を促す。また、外部講師の活用や課外学習、家庭学習を充実させる。	簿記、情報処理を中心として商業コア科目を活用した上位級への資格取得に向けて放課後、長期休暇等を利用して課外や外部講師講習会を実施している。	B	検定前課外や長期休業中の外部講師講習会など効果的に活用し、上級取得へ向けに取り組むことができた。
		各科目内で明確な目的と目標を設定したうえで授業を展開するとともに、地域を教材として創意工夫し、「わかる喜び」を実感させ、自ら学ぶ学習意欲の向上を図り、主体的に考える力を育成する。	TT授業を効果的に活用し、習熟度別学習や課外学習を実施するなど、理解の定着をはかる授業を行っている。	B	TTを効果的に活用し、状況に応じて習熟度別学習を実施し、理解の定着とつまづきの気づきを意識して指導することができた。
	ビジネス社会におけるマナーやコミュニケーション能力、問題解決能力を育成する。	授業内で勤労観・職業観を養うために各科目内で外部講師や体験的な活動等を扱う。	本来、インターンシップ活動等を活用する予定であったが、感染症予防により中止となったため、各科目での学習指導を通じて職業観、倫理観を育成する。また、外部企業との連携学習や地域交流行事等を効果的に活用する。	B	職業観、倫理観においては、各科目の特性をいかし、授業活動を通して育成した。また、外部企業においては、リモート等を効果的に活用した連携学習を実践した。
		授業の始業時と終業時にあいさつや身だしなみ、言葉遣い、授業の受け方や心構えについて授業の折、指導する。特に、今年度はコミュニケーションを生徒が主体的にできるようロールプレイングなど生徒が活動する授業を行う。	ビジネスマナー学習やコミュニケーション能力向上講習会を通して言葉使い、礼儀など社会人として必要なマナー学習を実践活動を通して行う。	B	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、講習会の実施はできなかったが、教科ならびに科目の各授業を通してビジネスマナーに係る単元についてロールプレイング学習などを取り入れ、生徒の意識向上を図った。
		ビジネス教育を通して、将来、主体的に社会でたくましく生きるための勤労観や職業観を育成する。	社会人としての資質を養うために、TPOを考えた言語活動を積極的に授業で取り組む。	B	各授業を通して、電話応対や書類の作成などマナーの重要性について学習活動を行い、社会人として必要はスキルの育成を図った。